

日本のサイバーセキュリティを「連携」「学び」「創造」



Japan Network Security Association

活動の紹介

JNSA

<https://www.jnsa.org/>

2021年9月

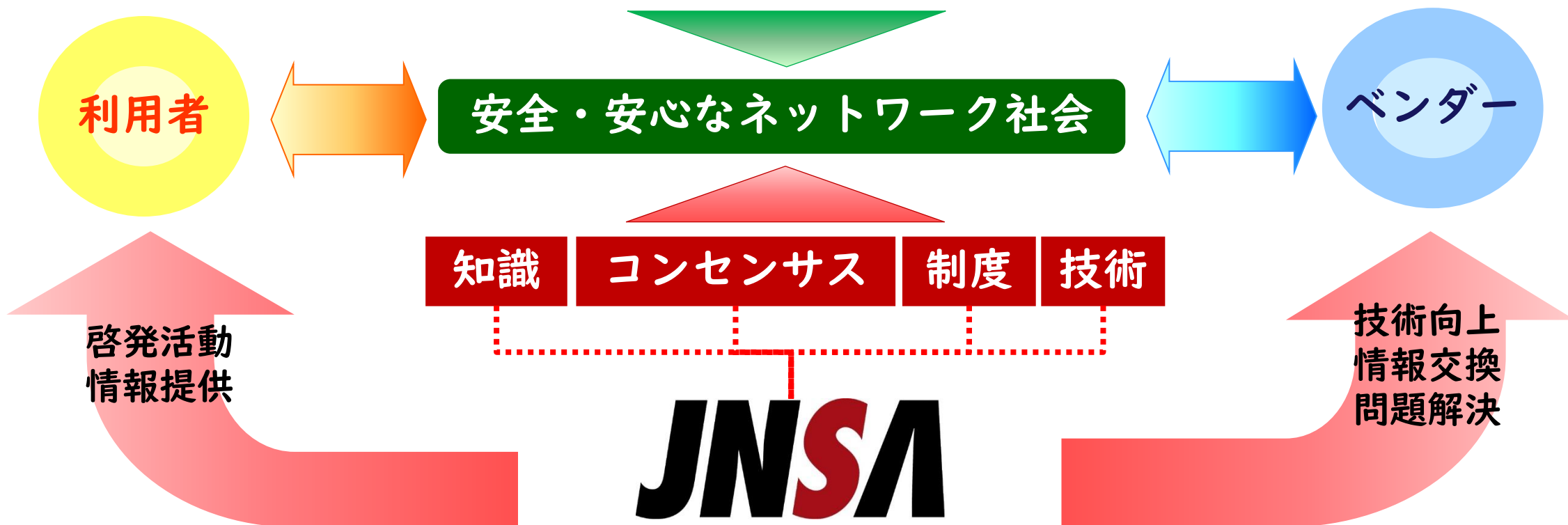
事務局長 下村正洋

設立の趣旨（2000年4月）

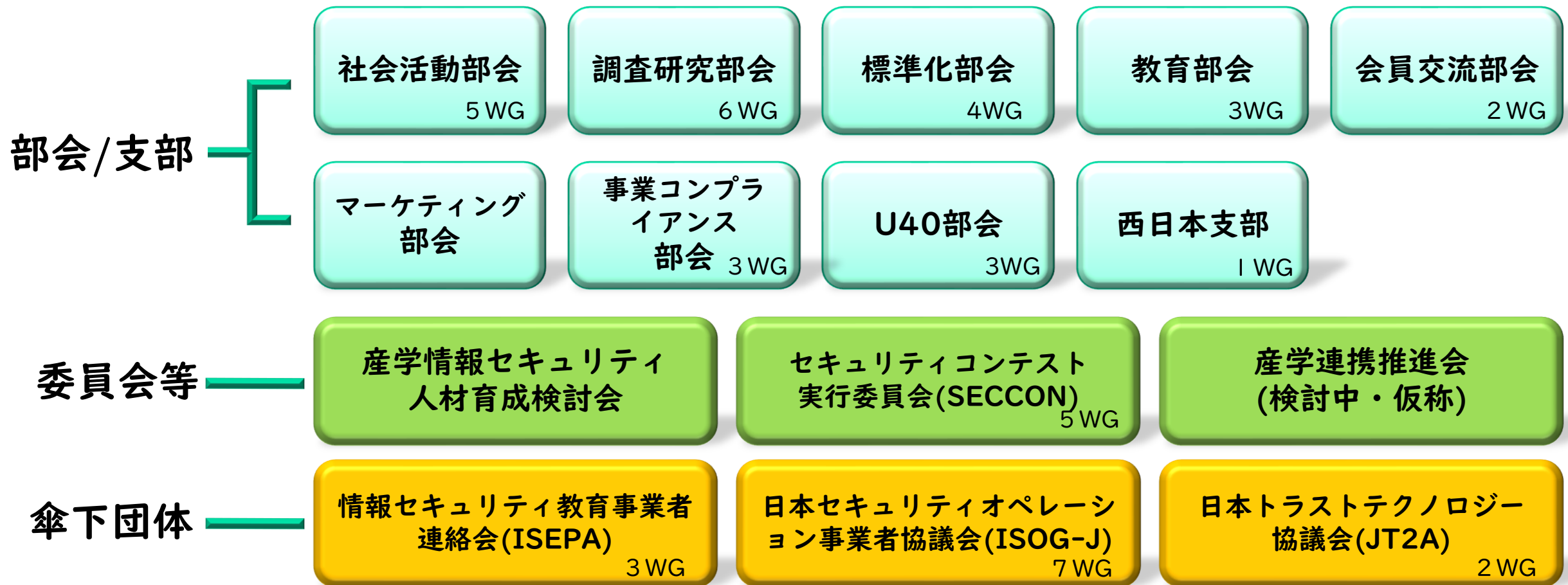


ネットワークの急速な普及

インターネットの拡大（誰でも、どこでも）
利用者が一般人まで（初心者からプロまで）
すべてがネットワーク（社内データ、機密情報）など



活動全体図



※WG：ワーキンググループを表す

社会活動部会

部会長：丸山 司郎氏（株式会社 F F R I セキュリティ）

副部会長：唐沢 勇輔氏（Japan Digital Design 株式会社）

JNSAがサイバーセキュリティ界における、社会問題の解決者として、今まで以上に社会に貢献していくために、従来から行ってきた活動の見直しを行うとともに、政策提言活動を行っていく。

具体的には、適正なセキュリティ事業遂行の促進、業界団体としての政策提言のとりまとめ、政府と協力した政策の促進、メディアや市場の力を活用した普及啓発活動、外部組織支援、国際・他団体連携などを行う。

- 政府機関等他組織との連携
 - ・ 定例意見交換会の実施
NISC、総務省、経済産業省、IPA等
- 対外発信活動
 - ・ プレス向け記者懇談会、時事ワークショップ
- 会員向け勉強会企画実施
 - ・ 法律、最新動向、政策等
- 情報発信活動
 - ・ JNSAメールマガジン、しんだん等

社会活動部会



海外市場開拓WG

リーダー：松本 照吾氏（アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社）

Made-in-Japanのセキュリティソリューションの海外展開・拡販を業界団体として促進する。

本日講演

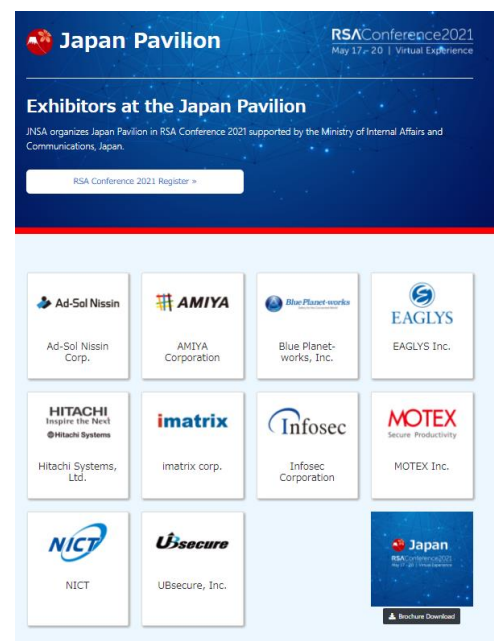
<活動予定>

- ・RSA Conference USA 2021 (2021年5月)にJAPANパビリオン出展
- ・海外市場進出ガイドのアップデート
- ・セキュリティ事業特化の輸出関連教育

<予定成果物>

- ・海外市場進出ガイド
- ・セキュリティ事業特化の輸出関連ガイド
- ・各社の製品情報の英語版の拡充

RSA2021 Virtual



RSA2020
総務省の支援を受け
JNSA会員企業16社



Cebit Asean Thailand

C I S O 支援WG

リーダー：高橋 正和氏（株式会社Preferred Networks）

2021年1月20日、「CISOハンドブック—業務執行のための情報セキュリティ実践ガイド」（著作 JNSA CISO支援ワーキンググループ）を出版。
今年度は「CISOハンドブック」を発展させ、イベント、トレーニングなどの実施も検討



< 予定成果物 >

- ・ドキュメント、イベント等での発表、トレーニングマテリアルなど

JNSA CERC

リーダー：高橋 正和氏（株式会社Preferred Networks）

緊急時の情報交換のプラットフォームとして活動。

中小企業支援施策WG

リーダー：岩本 真人氏（トレンドマイクロ株式会社）

中小企業の情報セキュリティ対策導入を促進する官民による支援施策の検討と、その実践中小企業の情報セキュリティ市場の拡大を捉えたJNSA会員のソリューション展開への寄与

＜予定成果物＞

- ・ 支援施策の検討のための調査の纏め
- ・ 対策ガイドラインの作成
- ・ 外部支援機関/支援者との協働施策



みんなの「サイバーセキュリティコミック」実行委員会 実行委員長：本川 祐治氏（株式会社日立システムズ）

セキュリティ知識の普及とネットリテラシーの向上、ネットを守るハッカーへの興味とイメージアップを目的として昨年度よりひき続き『みんなの「サイバーセキュリティコミック」《シーズン2》』を開催。 <https://www.jnsa.org/comic/>

「サイバーセキュリティ」をテーマとしたコミックを制作し、Twitterで広く発信するイベント。コミックのテーマは一般からアンケートにより決定し、テーマに基づきストーリーを作成、プロの漫画家の方が書いたコミックをTwitterで発信します。

協力：株）角川アスキー総合研究所／(株)KADOKAWA



調査研究部会

部会長：前田 典彦（株式会社 F F R I セキュリティ）

情報セキュリティにおける各種の調査および研究活動を行う。
セキュリティ被害、情報セキュリティ市場などの統計分析事業、および、重要度や緊急度の高いテーマに関する脅威分析、対策研究を推進する。適切な時期、形式を用いて適宜情報公開を行い、調査研究における成果を広く社会に還元する。新規性や緊急性の高いテーマの検討が必要となる場合においては、勉強会、BoFなどを随時行うなどして、柔軟かつ迅速な対応を行う。

セキュリティ被害調査WG リーダー：大谷 尚通氏（株式会社エヌ・ティ・ティ・データ）

2021年度は、2019年調査報告書の公開とともに、2020年個人情報漏えいインシデントのデータを受領・分析。長崎県立大学と連携して、2021年個人情報漏えいインシデントを収集する。これまでの個人情報漏えいインシデントの調査と報告書作成をみなおし、今後の調査実施可否を決定する。

< 予定成果物 >

- ・ 2019年個人情報漏えいインシデント調査報告書
- ・ 2020年個人情報漏えいインシデント調査報告書
- ・ 被害報告(報道や報告書)の標準化テンプレート、報告書

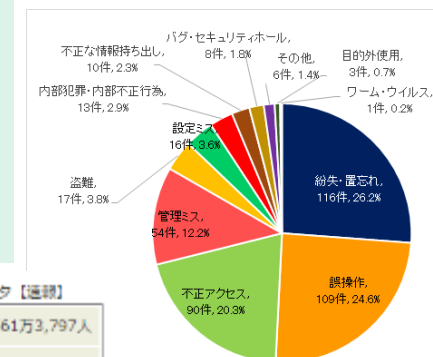


表 1：2019年 個人情報漏えいインシデント 概要データ【速報】

漏えい人数	561万3,797人
インシデント件数	443件
想定損害賠償総額	2,684億5,743万円
一件あたりの漏えい人数	1万3,334人
一件あたり平均想定損害賠償額	6億3,767万円
一人あたり平均想定損害賠償額	2万9,768円

セキュリティ市場調査WG リーダー：礒部 良輔氏（興安計装株式会社）

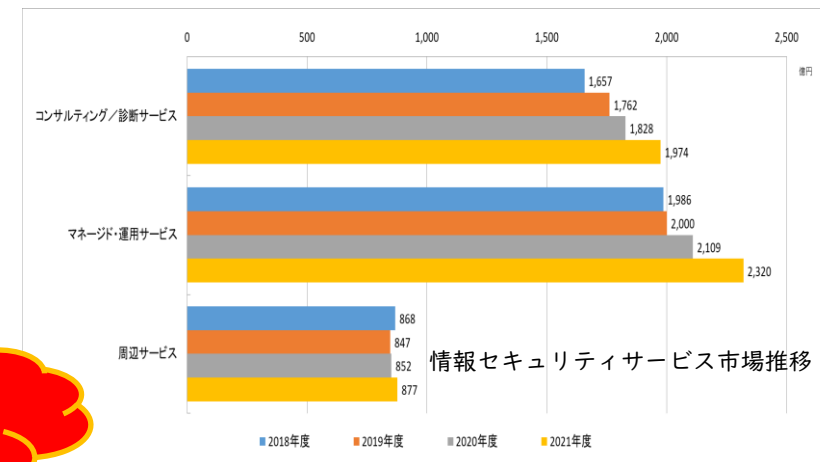
サブリーダー：玉川 博之氏（株式会社VSN）

国内で情報セキュリティに関するツール、サービス等の提供を事業として行っている事業者を対象として、推定市場規模データを算出し報告書として公開する。

また、近年のセキュリティ市場拡大の伴う、市場調査の調査内容、セキュリティ区分の見直しを継続して実施予定。

本日講演

2020年度 国内情報セキュリティ市場調査報告書を公開（2021.6.30）
次年度に向けて調査継続中



組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応WG

リーダー：甘利 康文氏（セコム株式会社）

(1)人の意識や組織文化、(2)組織の行動が影響を受ける社会文化や規範、(3)不正を防ぐシステム、の3方向から「組織で働く人間が引き起こす不正・事故」に対する考察を深め、ベストプラクティスの紹介、提案、啓発を行うことを目的とする。

<活動予定>

新規ヒアリング先を開拓し、調査内容をJNSA会報誌やWebサイトを活用し積極的に啓発活動を展開する。

<予定成果物>

- ・「組織文化醸成によるES向上」に向けた各組織の取組事例のWeb記事公開
- ・ JNSA Pressへの寄稿、セミナー等の講演

インシデント被害調査WG

リーダー：神山 太郎氏（あいおいニッセイ同和損害保険株式会社）

サブリーダー：西浦 真一氏（キヤノンITソリューションズ株式会社）

明日講演

サイバーセキュリティを取巻く環境の変化に応じ顧客ニーズや課題を捉え直し、国内外における新たなビジネスアプローチやマーケットの構図の変化を調査する。情勢に応じた旬なネタを集めた情報交換会を実施する。

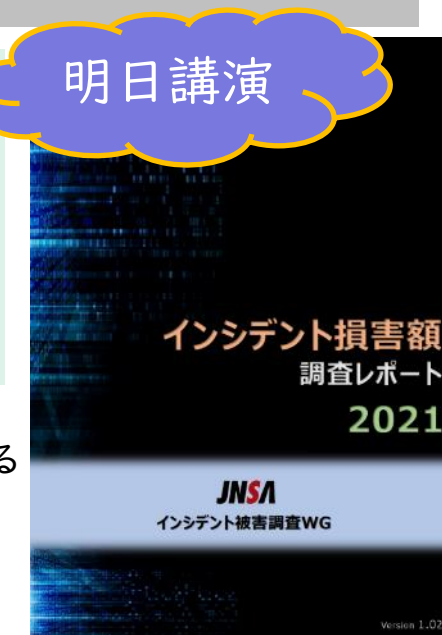
1. WGの活動目的

サイバーインシデント被害者に発生しうる、金銭的負担項目とその被害額を調査・算定し、成果物としてまとめる

2. WGの年間活動予定

月1回程度の頻度でWGミーティング、2021年度版の成果物のリリース、翌年度版成果物作成に向けた調査

3. 予定成果物 「2021年度インシデント発生時の被害額」報告書 2021年8月18日公開済み



IoTセキュリティWG

リーダー：松岡 正人氏（日本シノプシス合同会社）

IoTに限らず、新しい技術に関連するセキュリティ上の課題を整理・共有し、外部の組織などと連携しながら適切なリスクや脅威についての理解を広める支援をする。IoTセキュリティに関連する調査研究を継続する。

<年間活動予定>

- ・メンバーからの提案を議論し、分野と成果物（ガイドなど）の作成との目標を検討して成果物の作成に着手。

<予定成果物>

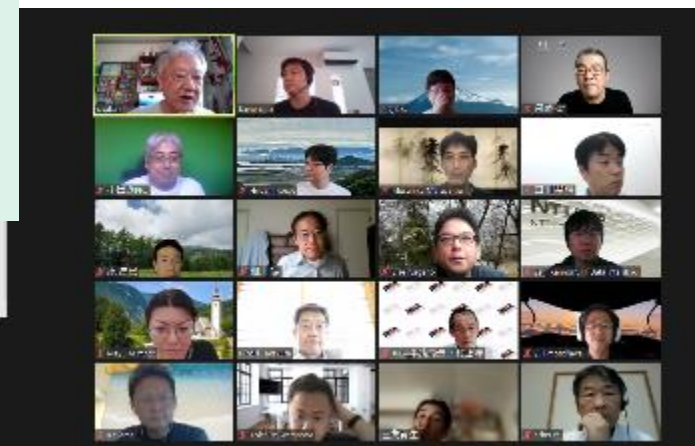
- ・IoTセキュリティガイドなど

脅威を持続的に研究するWG リーダー：甲斐根 功氏（株式会社日立システムズ）
サイバーセキュリティを取巻く環境の変化に応じ顧客ニーズや課題を捉え直し、国内外における新たなビジネスアプローチやマーケットの構図の変化を調査する。情勢に応じた旬なネタを集めた情報交換会を実施する。

＜活動予定＞

- ・キックオフミーティング（4月）
- ・情報交換会（協働の会）開催（1回/年）
- ・オンライン情報交換会（2回/年）第1回2021/8/10

九大岡谷講義録画
「サイバー問題の本流深読み」
～サイバーセキュリティ分野の
奔流を俯瞰する～
令和3年6月20日



AI セキュリティ WG（新設）

リーダー：福井 将樹氏（NTTアドバンステクノロジー株式会社）

機械学習（ディープラーニング）をはじめとしたAI技術の進展により、サイバー攻撃手段も高度化・効率化が進み従来の防御手段では限界が生じる懸念が高まっている。一方で、防御面においても、AI技術を応用した様々なソリューションが出現しつつある。別の観点では、AIを使ったデバイスやシステムに対する攻撃（敵対的AI）やAIが社会に浸透した時のセキュリティ懸念も今後顕在化するとされている。本WGでは、上記のようなAIとセキュリティという観点で、技術面を中心に動向調査や企画提言を行うことを目的として活動する。

＜活動予定＞

- ・有識者を招聘してのセミナー実施
- ・メンバ間での情報交換、議論等、勉強会開催

標準化部会

部会長：中尾 康二 氏（国立研究開発法人情報通信研究機構）

副部会長：松本 泰 氏（セコム株式会社）

業種・業界・分野等の標準化・ガイドライン化などを推進する。
特に、JNSA目線のセキュリティベースラインの提供、情報セキュリティ対策ガイドラインの策定などを進める。また、国際標準/国際連携との親和性の高い案件については、国際標準への提案やコメント、国際連携案件も視野に入れて、議論を進める。

- ・ JNSA標準化部会主催セミナー
 - ・ 2021年1月15日
「デジタル社会に不可欠なサイバーセキュリティ標準化動向」（申込み328名、参加255名）
 - ・ 2021年10月17日予定
Digital Trust Day 2021「DXのためのデジタルトラストの実現に向けて」

デジタルアイデンティティWG

リーダー：宮川 晃一氏（日本電気株式会社）

広くデジタルアイデンティティに関する様々な課題を検討し、デジタル社会の基礎となるIDの重要性の啓蒙やプライバシー関連の問題提起や標準化に向けた意見交換を行う。

メンバー紹介 https://www.jnsa.org/active/std_idm.html

<2020年度成果物>

- ・認証・認可の要素とその関係の整理 2021年度に成果物発行予定
- ・特権ID管理 第2版 2021年度に成果物発行予定
- ・技術評論社 Software Design 11月号 特集記事執筆
- ・デジタルアイデンティティLT大会実施
- ・標準化ドキュメント読んでみる SP800-63シリーズ勉強会実施

<活動予定>

- ・5月：WGキックオフ（テーマ決定）
- ・6月-翌3月：WG実施（月1回）
- ・デジタルアイデンティティ専門セミナー開催（予定）
- ・LT大会、プライバシー勉強会、その他講演、執筆活動は随時実施予定。
- ・コロナ禍にある場合はオンラインによるWG開催とする。

<予定成果物>

- ・セロトラスト環境におけるアイデンティティ管理（仮称）」



電子署名WG

リーダー：宮崎 一哉氏（三菱電機株式会社）

電子署名関連技術の相互運用性確保のための調査、検討、標準仕様提案、相互運用性テスト、及び電子署名普及啓発を行う。

<2020年度活動>

- ・ ISO/TC154国内審議団体として活動。
- ・ 【署名検証規格】成果物としてデジタル署名検証ガイドラインを作成。
- ・ 【ISO/SC34】リエゾンとして国内専門委員会にて規格作成支援。
- ・ 【JAHIS】リエゾンとして電子処方箋実装ガイドの作成支援。
- ・ 【JCMVP 技術審議委員会】規定案等レビュー。
- ・ 電子署名ワーキンググループ執筆「電子署名Q&A」を公開（2020/9/16）
- ・ 「PKI Day 2021」共催及び講演を企画・実施（2021/4/15、16）

<活動予定>

- ・ 標準仕様案検討会（年30回程度）
- ・ ISO/TC154国内審議委員会の運営支援、
欧州電気通信標準化機構/電子署名基盤技術委員会（ETSI/ESI）会議参加、
ISO/SC34及びJAHISのリエゾン
- ・ PKI Day等講演会の開催
- ・ 「デジタル署名検証ガイドライン」公開（2021/04/15）

電子署名Q&A



明日講演

デジタル署名検証ガイドライン

第1.0版

2021年3月31日

NPO 法人
日本ネットワークセキュリティ協会
電子署名ワーキンググループ

日本ISMSユーザーグループ

リーダー：魚脇 雅晴氏（エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社）

ISMS認証取得企業（ユーザ）とISMSの専門家が連携し、意見交換・議論を進めることでISMSの構築・運用に関わるユーザ視点でのベストプラクティスを提供し、日本における健全かつ効果的なISMS普及・促進に貢献する活動を行う。

本日講演

<2020年度活動>・2020/12/18（金）

「日本ISMSユーザグループ 情報セキュリティマネジメント・セミナー2020」

（オンライン開催）（申込み374名、参加310名）

・インプリメンテーション研究会（11回実施：参加延べ人数1202名）

<活動予定>・インプリメンテーション研究会におけるISMSの構築や運用における課題検討（毎月）

・情報セキュリティマネジメントセミナーの開催と研究結果の発表（12月）

<予定成果物>・ISO/IEC27002の改定内容の取り込みをユーザ視点で検討&整理

・ISMSの実装&運用についての事例研究（テーマ選定中）

PKI相互運用技術WG

リーダー：松本 泰氏（セコム株式会社）

デジタル社会におけるPKIの重要性をアピールしていく。

<活動予定>・4/15、4/16 PKI&TRUST Days online 2021開催

・第4回会議管理勉強会の開催

・年3回にてIETF参加報告会（WG開催）

<予定成果物>・PKI day、鍵管理勉強会などでの発表。

教育部会

本日講演

部会長：平山 敏弘 氏（学校法人電子学園）

社会のニーズや時代の変化に適合したセキュリティ人材育成のため、必要とされる知識・技能等の検討を行い、実際に大学や専門学校等で評価実験を行う。また、情報セキュリティ教育のコンテンツとして、講義シラバスや講義資料およびSecBoKの作成・公開を通じて、教育界・産業界への展開・使用を促進することで、情報セキュリティ人材の育成に貢献する。2021年度も引き続き情報系大学における講義カリキュラム指標であるJ17との連携とASEANを中心とした海外教育機関との連携によるセキュリティ人材育成への貢献を目指す。さらに、継続して講師データベースへの登録講師や講師予備軍の若手による講義・勉強会の開催等、教える場の提供を支援することにより、JNSA教育部会メンバーのスキル向上を目指す。加えてセキュリティコンテストとは異なる新たな実践教育ツールの開発や検証に対しても検討を行う。

SecBoK2021更新版の展開、およびSecBoK2022改定委員会活動を実施する。

- ・ <2020年度活動>
 - ・ SecBoK2021改定版作成のための、有識者委員会開催。
 - ・ SecBoK2021ドキュメント作成作業の実施。
- <活動予定>
 - ・ 前期（4-8月）SecBoK2021版の展開
 - ・ TAGと連携した人材可視化の活動を実施。
 - ・ 後期（9-3月）SecBoK2022改定版の作成作業。
- <予定成果物>
 - ・ SecBoK2022



セキュリティ知識分野（SecBoK）

ゲーム教育WG

リーダー：長谷川 長一氏（株式会社ラック）

ゲームを活用した情報セキュリティの実践的教育の調査・企画・実施（イベント、講師派遣等）、及び普及促進に取り組む。

<2020年度活動>

- ・「SECCON2020電腦会議」講演（Zoom）
- ・国立高専ウインタースクール 石川高等専門学校
- ・某研究機構ファシリテーター派遣

<活動予定>

- ・2021年度前半：「MalwareContainment」Web版のお披露目、ファシリテーターマニュアルの内部公開と育成活動
- ・講師派遣活動
- ・2021年度後半：ファシリテーターマニュアルの内部公開と体験イベント開催、

新規ゲームの検討・企画、講師派遣活動

<予定成果物>

- ・「MalwareContainment」ファシリテーターマニュアル（仮称）



情報科学専門学校と共同開発
スマートフォンアプリ
『セキュリティ専門家 人狼』モ
バイル：SECWEREWOLF
MOBILE
(Androidアプリ／無料)
Google Play で提供中！

情報セキュリティ教育実証WG

リーダー：垣内 由梨香氏（日本マイクロソフト株式会社）

情報セキュリティを教えることが出来る高度なスキルをもった人材を育成するために、実践での大学などでの講義を通じて、実践力とハイレベルスキルの習得を目的とする。

また、作成した成果物（講義コンテンツ）のJNSA会員企業への共有と他の学校関連や団体への展開を計画

<年間活動予定>

- ・4-8月 岡山理科大学講義実施
- ・7-9月 神奈川県教育委員会 高校情報系の教員へのセキュリティ講義
- ・10-3月 ISEF（NPO情報セキュリティフォーラム）情報セキュリティ大学院大学と連携し、セキュリティ基本講習の実施

セキユ女WG

リーダー：北澤 麻理子氏（ドコモ・システムズ株式会社）

会社の枠を超えた連携を可能にし、女性セキュリティエキスパートの交流場所を提供する。

また、セキュリティに関する専門スキルを持ちたい女性を応援するための活動を行う。

会員交流部会

部会長：扇 健一氏（株式会社日立ソリューションズ）

情報セキュリティ業界における健全な発展と貢献のため、
会員向けのサービスとユーザ向けのサービスをマーケティング部会と連携
しながら拡充させる。

セキュリティ理解度チェックについては利用者の増加に伴い、安定的に運
用可能な環境の整備強化を検討する。

なお、会員向けの説明会や政府統一基準群の改定予定を受けた各種ガイド
ライン等の勉強会、また紐づけについては継続的に実施する。

- ・ <2020年度活動>
 - <活動予定>
 - ・ SecBoK2021改定版作成のための、有識者委員会開催。
 - ・ SecBoK2021ドキュメント作成作業の実施。
 - ・ 前期（4-8月）SecBoK2021版の展開
 - ・ TAGと連携した人材可視化の活動を実施。
 - ・ 後期（9-3月）SecBoK2022改定版の作成作業。
 - <予定成果物>
 - ・ SecBoK2022

会員交流部会



セキュリティ理解度チェックWG

リーダー：西浦真一氏（キャノンITソリューションズ株式会社）

理解度チェックの継続的な問題の見直しを行うと共に、プレミアム版（有料サービス）のユーザ数増加に向けた対外活動を実施する。プレミアム版の利用者の増加に伴い、安定的に運用可能な環境の整備強化を行う。

理解度チェック・プレミアム（有償版）

<https://slb.jnsa.org/eslb/>

<2020年度活動>

下期を中心に、WGを月1, 2回の頻度で開催。

また新たな問題の追加なども実施。

2020/10/22にJNSA会員を対象に作問説明会（オンライン）を開催し、有志の方に問題の作成を頂いた。

<活動予定>

- ・ 四半期に1度の会合で問題の見直し等を行う。
- ・ 有償版のシステム維持（必要に応じてアップデート等）
- ・ マーケティング部会と連携し、理解度チェックの認知度向上を図る。

<予定成果物>

- ・ 理解度チェック新規問題・問題改修



会員交流部会



JNSAソリューションガイド活用WG

リーダー：秋山 貴彦氏（株式会社アズジェント）

JNSA会員の製品・サービス検索サイト「ソリューションガイド」の活用の活性化をはかる。

JNSAソリューションガイドサイト

<https://www.jnsa.org/JNSASolutionGuide/>

<活動予定>

- ・年間を通じたソリューションガイド活用に関するWG会合の実施
- ・ソリューションガイド活用を踏まえた各種施策の実施
 - － 各種関連団体との相互連携（相互連携を通じて、露出度を高める）

<予定成果物>

- ・JNSA内の他部会/WGが作成した成果物とソリューションガイドとの連携
- ・関係諸団体が作成した各種ガイドラインとソリューションガイドの連携
- ・関係諸団体が有しているWeb内でのバナー掲載促進



マーケティング部会

マーケティング部会



部会長：小屋 晋吾 氏（ニュートラル株式会社）
副部会長：持田 哲司 氏（株式会社ラック）

JNSAの認知度向上やWG成果物の普及促進を目的とした活動を行うとともに、会員企業を獲得するための施策を立案、実行する。

<活動予定>

- ・全国セミナーの企画・運営
- ・JNSAイベントへの運営支援
- ・連携組織のイベントにおけるJNSAのPR（2組織、年3回程度）
- ・勉強会の開催（年3回程度）

<予定成果物>

- ・全国セミナーの実施
- ・仕事紹介ビデオ制作

【セミナー（2020）】

「2020年度 JNSA全国サイバーセキュリティセミナー」
オンライン配信 スポンサー企業数：7社

参加者188名

登録者260名（非会員155名、会員105名）

※いずれもパネリストら除く

最大同時参加者数175名



事業コンプライアンス部会

事業コンプライアンス部会



部会長：西本 逸郎 氏（株式会社ラック）

サイバーセキュリティサービスの提供者が、ネットワーク社会、サービスを楽しむお客様、そしてサービス従事者として自らを守るために、適正なセキュリティサービス事業遂行の在り方について検討する。

2018年度の「サイバーセキュリティ事業における適正な事業遂行の在り方に関する検討委員会」にて取りまとめた「サイバーセキュリティ事業者行動規範（案）」と「サイバーセキュリティ事業者の基本指針（案）」について継続して議論を実施し、今後の運用方策含めて検討を行う。



「サイバーセキュリティ事業者 行動規範」、
「サイバーセキュリティ事業遂行の基本指針」
<https://www.jnsa.org/active/2019/comp.html>

事業コンプライアンス部会



企画WG

リーダー：唐沢 勇輔氏（Japan Digital Design 株式会社）

本部会の企画検討や外部機関とのPoCを担う。また、賛同企業の募集など、部会全体の取り組みに関する企画運営を行う。

<活動予定>

- ・ 倫理行動宣言の企画立案、普及
- ・ 有識者会議の開催
- ・ 関係省庁への働きかけ
- ・ 法律改正の検討

事業遂行の基本指針

1. はじめに

サイバーセキュリティ事業には、扱い方を誤るとそれ自

行動規範

サイバーセキュリティ事業に携わる者は、情報社会、セキュリティ製品やサービスを利用するお客様、そして事業者自身を守るために、以下の行動規範に則って事業を遂行します。

1. 情報社会の安全を向上させ、安心の醸成に努めます。
2. 法令等の正しい理解に努め、これを遵守します。
3. 高度化する脅威に備え技術の向上に努めます。
4. 自らの製品およびサービスの安全確保に努めます。
5. 倫理観を持ち、正当な目的のために業務を遂行します。

調査WG

リーダー：小村 誠一氏（エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジー株式会社）

海外の業務上で発生した法令上のトラブル事例や関連法制度に関する調査を実施する。調査対象として、法制度に加え、不正な活動に基づき、得た情報の売買や行動の変更を要求する組織や個人との取引について、海外の事例や考え方の動向などについても、収集、調査することを検討する。

2020年度調査報告書「現代のサイバーセキュリティの法的課題についての国際的な研究」2021/9/13公開

対象国：アメリカ、イギリス、ドイツ

- 内 容：1. ランサムウェアによる被害の実情及び支払いの可否に対する議論の動向、
その他の対応における注目すべき事案
2. 脅威インテリジェンスサービスの利用における注意すべき法令上の問題
3. 情報セキュリティサービス提供者と法執行機関・監督官庁などとの協力



明日講演

法令リスク研究WG

リーダー：田原 祐介氏（株式会社ラック）

サイバーセキュリティ業務の法令リスク一覧を作成するとともに、国内における事例研究を行う。こういった業務に、リスクがあるかを具体的に参照できる資料の完成を目指す。

- WGの年間活動予定：年数回のWGや勉強会の実施
- 予定成果物：法令リスク一覧、法令リスク・インシデント事例報告書

U40部会

部会長：杉野 広典氏（NECネクサソリューションズ株式会社）

若年層を対象メンバーとして、JNSAの若返り、若年層の活動活発化、幅広い人脈形成を目的として勉強会を中心とした活動を行う。

- ＜活動予定＞・JNSAが実施している「岡山理科大学」のリモート講義対応
- ・ICT-ISAC若手活躍SiGと連携した勉強会の開催
 - ・高専生とのオンライン交流会の開催

for RookiesWG

リーダー：岡島 麗奈氏（株式会社サイバーエージェント）

セキュリティ関連業務経験3年未満を対象とし、若手をはじめとした人的ネットワークの形成および知識向上を目的とする。「いまさら聞けない相談事」を主に参加者が講師を担当などアクティブラーニング方式で行う。

勉強会企画検討WG

リーダー：永塚 遼氏（SCSK株式会社）

U40部会員の知識・スキル向上を目指し、勉強会を企画・開催する。内容によってはJNSA会員からも広く勉強会参加者を募り、部会員同士・JNSA会員・外部講師との人脈形成を行う。

Inside IT WG

リーダー：羽鶴 颯氏（株式会社セキュアスカイ・テクノロジー）

ITの基礎技術を初歩の初歩から学べるワークショップを国内各地で開催し、IT業界全体の知識・技術力の底上げを目的とした活動を行う。ワークショップの対象は、大学生～新卒2年目までの若手を中心として、理系文系関係なくITについて学び直したいと考えている個人で、年齢所属に関係なく幅広い層を想定している。

西日本支部

支部長：元持哲郎氏（アイネット・システムズ株式会社）

西日本に拠点を置くメンバー企業が中心となり、提携団体との協働の下、西日本のネットワーク社会におけるセキュリティレベルの維持・向上に資すると共に、産官共同して、IT利活用の実現・推進のため、西日本に集積する中小企業がリスクの変化に応じた機動的な対応を行うことができる機会づくりを支援する。

今すぐ実践できる工場セキュリティ対策のポイント検討WG

リーダー：岡本 登氏（富士通株式会社）

現場実態を考慮したセキュリティ対策の考え方や新たなサイバー対応BCP策定に必要な観点などを整理し、中堅・中小製造現場のセキュリティ向上を支援する。

明日講演

＜活動予定＞

- ・ 7月：アセスメント手法の検討（評価項目と判定方法のポイントと例）
- ・ 11月：アセスメント結果に対応した対策の検討（ポイントと実施例）
- ・ 3月：サイバー対応BCPの策定ポイントの検討

※各検討テーマ毎に成果物を作成するが、对外発信はWG終了時とする

＜予定成果物＞

- ・ リスクアセスメントハンドブック
- ・ セキュリティ対策ハンドブック
- ・ サイバー対応BCP策定ハンドブック

委員会等

産学情報セキュリティ人材育成検討会



(JNSAインターンシップ)

座長：江崎 浩 教授（東京大学）

将来情報セキュリティ技術を活かして活躍したいと考えている学生に対して、情報セキュリティ業界の魅力を感じてもらえる場として**JNSAインターンシップ**。
<https://www.jnsa.org/internship/>

- ・ JNSAインターンシップの実施（通年）
- ・ 企業と学生との「交流会」の開催（本年は開催方法と実施時期を改めて検討）

交流会を計画中

日時：2021年11月土曜日または日曜日 午後

場所：オンライン（ZOOM ミーティング）

プログラム概要：

講演：「学生から若手社会人における学習と、WGの目指すもの(仮)」

パネルディスカッション：

「セキュリティ最新技術・知識の習得と将来展望(仮)」

＜コーディネーター＞ 江崎 浩 教授（東京大学）

＜パネリスト＞ 学生とJNSA若手

ワールドカフェ（ブレイクアウトセッション）：

＜参加者＞ ファシリテーター（JNSA会員企業より）
パネリスト） 学生（各グループ10名程度）

産学連携検討会（準備中）



座長：未定

サイバーセキュリティ分野の産学連携活動を強化し、わが国のこの分野における研究開発/実務対応を強化することにより、わが国IT環境のセキュア化を図り、結果としてIT利用による社会/企業活動の活性化に繋げる。

メンバーは複数の大学関係者とJNSA会員企業で構成

現在、準備会を開催し、参加方法や協働のルールなどを検討中。
準備が整い次第、会員向けに公開します。

SECCON実行委員会



実行委員長：花田 智洋（国立研究開発法人 情報通信研究機構）

副実行委員長：寺島 崇幸 a.k.a.tessy（株式会社ディアイティ / AVTOKYO / sutegoma2）

事務局長：園田 道夫（独立行政法人 情報処理推進機構、国立研究開発法人 情報通信研究機構）

日本最大のハッカー大会 「セキュリティコンテスト（SECCON）」を主催 （オンライン開催）

2021年12月11日-12日 SECCON CTF を開催予定です。

CTF未経験者向け「SECCON Beginners」（5月22日-23日・8-9月頃）

女性向けワークショップ「CTF for GIRLS」（6月30日、8-9月・11-12月・2-3月頃予定）

オンラインワークショップ「SECCON2021 電腦会議」（12月18日-19日）なども開催いたします。

<https://www.seccon.jp/2021/>

スポンサーを募集しております。
興味ある方は事務局までご連絡ください！！

傘下団体など

情報セキュリティ教育事業者連絡会 (ISEPA)



代表：持田 啓司氏（株式会社ラック）

サイバーセキュリティに関する教育を提供している事業者の連携を図り、産官学を結ぶ中心的役割を担うことにより、より効果的なサイバーセキュリティにかかわる人材の育成を支援し、ひいては日本全体のサイバーセキュリティ向上に寄与する。また、政府機関への政策提言や政策実現のための適切な事業者紹介を行う。

本日講演

<活動予定>

- ・セミナー開催
- ・情報共有会議
- ・セキュリティ関連スタッフのヒヤリング調査
- ・教育コース・資格のSecBoKマッピング
- ・スキル認定ガイドライン作成

<予定成果物>

- ・セキュリティ関連スタッフ調査報告書
- ・教育コース・資格のSecBoK対応マップ
- ・スキル認定ガイドライン(バージョンアップ)

<主な報告書>

- JTAGキャリアデザインワーキンググループ報告書「セキュリティ業務職種のキャリア展望について」(2021.5.20)
- セキュリティ業務を担う人材のスキル可視化における概念検証報告書～トライアル結果の考察～(2019.11.19)
- セキュリティ業務を担う人材のスキル可視化施策の考察～プラス・セキュリティ人材の可視化に向けて～<1.0版>(2019.10.30)
- キャリアパスグラウンドデザインの考察_ver1.0(2019.10.7)

日本セキュリティオペレーション事業者協議会 ISOG-J

代表：武智 洋氏（日本電気株式会社）

セキュリティオペレーション技術向上、オペレータ人材育成、および関係する組織・団体間の連携を推進することによって、セキュリティオペレーションサービスの普及とサービスレベルの向上を促し、安全で安心して利用できる IT 環境実現に寄与することを目的として活動する。

<活動WG>

- ・WG1（セキュリティオペレーションガイドラインWG）
- ・WG2（セキュリティオペレーション技術WG）
- ・WG4（セキュリティオペレーション認知向上・普及啓発WG）
- ・WG6（セキュリティオペレーション連携WG）
- ・TF（セキュリティサービス認定検討タスクフォース）
- ・新技術とオペレーションPJ

<予定成果物>

- ・各所での発表資料、JNSA全国セミナー発表資料、セキュリティ対応組織の教科書 ver3.0

<主な活動成果>

- 書籍「サイバーセキュリティ法務」（商事法務）の監修や一部執筆に協力(2021.2.5)
- 「マネージドセキュリティサービス選定ガイドライン Ver.2.0」を公開(2020.7.13)
- 「ペネトレーションテストについて」（2021.12.10）
- セキュリティ対応組織（SOC,CSIRT）強化に向けたサイバーセキュリティ情報共有の「5WIH」 v2.0 (2019.4.5)
- セキュリティ対応組織の教科書 成熟度セルフチェックシート v2.2 (2019.2.5)
- Webシステム／Webアプリケーションセキュリティ要件書 Ver.3.0(2019.1.15)

運営委員長：小川 博久氏（株式会社三菱総合研究所）

電子署名や電子認証など含むトラストテクノロジーに関連する事業者及び利用者が主体となり、産学官及び国内外の関連団体と連携して信頼性を担保するための技術等の検討を行い、より信頼できる電子社会の促進に寄与する。

<2020年度成果物>

- ・リモート署名ガイドラインの作成・公開（リモート署名TF）
- ・欧州(eKYC/eIDAS関連)のリモートにおける本人確認事例の調査（真正性保証TF）

<活動予定>

- ・上記の改訂及び調査検討を行い、月一回程度、Web会議の開催

<予定成果物>

- ・リモート署名ガイドラインの改訂、（リモート署名TF）、
欧州(eKYC/eIDAS関連)のリモートにおける本人確認事例の調査概要

その他活動

➤ JNSA表彰

- 情報セキュリティに係る活動が顕著な、個人・団体・WG・学生等を表彰



➤ 主催セミナー・勉強会・シンポジウム等の開催

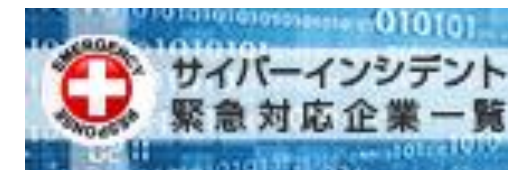
- JNSA活動報告会（9月）
- 主催フォーラムNetwork Security Forum (NSF)2022（1月以降予定）



➤ セキュリティ十大ニュースの発表（12月）



➤ サイバーインシデント緊急対応企業一覧の公開



情報セキュリティは単独では完成しません

JNSAの活動に参加しませんか

人脈を広げる

知識を広げる

ビジネスを広げる

活動に参加したい、新しい活動を創出したいと思ったら

事務局(sec@jnsa.org)に相談してください

ご清聴ありがとうございました。

JNSAをよろしくお願いいたします。

事務局長 下村正洋